

# ソルフェージュ スクール

2015年3月18日発行  
編集責任者 古澤裕治  
豊島区目白4-23-10  
Tel 03-3953-8517

ソルフェージュスクール

## 変わらずに目指しているもの

ここ数年の間にソルフェージュスクール創設期からの五人の先生方が世を去られました。

二〇〇七年以降、田中園子先生、林紀子先生、石田昌孝先生、大村多喜子先生、そして昨年二〇一四年に青木十良先生（別掲）です。

それぞれが音楽を心から愛され、スクールの五十年間を支えてこられたかけがえのない方々でした。

失われたものは計り知れませんがソルフェージュスクールは世代が代わっても音楽教育での同じ目的を追求すべく歩んでいます。三年前からは公益財団法人として社会に貢献する使命を持った団体となり益々活発な活動を進めていききたいと考えています。

今どこの教育機関にとっても大きな問題なのは少子化による子供の減少であり、その影響を受けているのはスクールも例外ではありません。また残念ながら受験のために早くから入室する人もあって、心身ともに成長してきてこれからだというところで音楽から離

れざるを得ないのは惜しまれることです。

今年度はより広い世代の方々を受け入れようと成人向けの音楽基礎入門講座を開講しました。これまでも年齢に拘らず生徒を受け入れていましたが成人向けと銘打ったのは初めてのことで、中高年世代に目を向けていく必要を強く感じさせられており今後同様の講座を継続して設けていく予定です。（別掲）

ソルフェージュスクールの教育の目指すところは音楽の外見を見栄えよくつくり上げるためのものではありません。一つの曲をよく演奏するためには少なくとも譜面上に書かれていること（音符、拍子記号、調号、速さ、音の大小、曲想などの表示）を理解し、その言わんとするところを察せられるようになることが必要です。それを楽器や声による演奏で表現することになります。その楽譜の理解と演奏を基礎から着実に学んでいただけるのがソルフェージュスクールです。

一つの曲を仕上げるための努力も必要ですが、どんな曲をやるにも通じる

音楽の理解力（基礎的な力）を身に付けていなければ折角の努力も無駄が多いものになるのは、音楽を学ぶ人が大勢いるにもかかわらず決して一般的に理解されているとは言えません。そこにソルフェージュスクールの存在意義があり、広く訴えていきたいところです。

古澤裕治

\*\*\*\*\*

## 音楽と共に

水野紀子先生



二年前の四月、大村明子先生から、久しぶりにお電話を頂きました。

「実は石田先生が急に入院なさってしまい、困っているんだけど…」というお話でした。「では先生が退院なさる迄なら代講を」とお引き受けしたのでした。

こうして何の経験も準備もなく、手探りのまま実戦へと向かったのです。

私に最初の手ほどきをして下さったのは、家族ぐるみでお付き合いのあった大村明子先生のお母上でした。小学生の時でしたが、先生のゆるして下さるのをよい事に、ワルサの限りを尽していました。当時の気分が抜けません。今でも明子先生には甘えています。その後は、これまた穏やかな林紀子先生に。まだ林さち子先生が、可愛い「チャッチャン」と呼ばれていた頃のことです。

この頃はそこに練習をしていたかと思うのですが、大学生になると、何かと父（スクールで室内楽を教えていた青木十良）の視線を感じる様になり、それに抵抗して、殆んどさらわずにレッスンに行く、正真正銘の劣等生となりました。

そして大学を出てからは、何とかしなければいけない、と留学を決め、貯めていた小遣いと奨学金で、ドイツでの勉強を始めたのです。そこで初めて、さらってから受けるレッスンの楽しさに目覚めたような有様でした！！

その後もドイツに残り、三十年近く過ごしましたが、主人が日本の大学に招かれたのを機に戻ってまいりました。

ドイツでの生活は、室内楽が中心でしたが、不器用な私は演奏会の準備にいつも時間がかかり、焦ることも度々でした。それでも日本よりは、ゆとりのある生活をしていた様な気がします。

そのせいか、時間にしばられるのが苦手で、毎週決まった曜日に仕事をやるなんて「勘弁!」と思っていた私が、スクールには比較的眞面目に通っている。これは、この先生方が「生徒の為に何が出来るか?今、どれがベストなやり方か?」をいつも真摯に考え、実践している事に感動したからです。毎回自分の至らなさを気付かされる思いでいます。

又、時には先生同士で演奏する事があります。弾いている者も聴きに来た先生も、いろいろな考えを遠慮なくぶつけ、話し合います。いざ演奏会となると、極度の緊張をし「止めておけば良かった!」と後悔する私ですが、皆で練習している時の楽しさは格別なものです。

素晴らしい先生方や幅広い年代の生徒さん達との交流。その全てが私にとってソルフエージスクールの魅力なのです。



## 大人のための基礎音楽入門講座

ソルフエージスクールに初めての試みとして、音楽の基礎を学ぶための成人向け講座が開設されました。

趣旨は、初心者の人をはじめ歌や楽器の演奏で音楽に親しんでいる人にも役に立つ基礎を知識としてのみでなく、体を通して学んでいただこうというものです。

音楽を習うお子さんを持つ親御さんにも音楽学習への理解を深める意味でお薦めできる講座です。

十月から十二月にかけての毎水曜日午前中の一時間半で十回のシリーズ。受講生は募集定員丁度の十名。年齢層では三十代1、四十代4、五十代1、六十代4でした。

以下は講座内容の簡単な紹介です。

(ホールで)

- ・軽い体をほぐす運動
  - ・リトミックⅡ音符の長さの認識と拍と拍子の理解の体得
  - ・歌をうたう
  - ・動作を伴う遊び歌による遊戯Ⅱリズムカルな動きに慣れる
- (教室で)
- ・リズムカードⅡリトミックで体験した拍、拍子、リズムの整理と確認・簡単なリズムの聴き取り

・ソルフエージエイトⅡ音階を並べる・簡単なメロディーの書き取り・プティット・フレーズとダンス・ノール教本Ⅱ譜を読むことに慣れ、また正しく歌うために

受講生一同の熱心さと柔軟な感性が相まって、皆で歌った教材としての歌は音楽性に富んだもので、体を使ったリトミックなどを通して体得した拍の強弱、フレーズ感覚などの成果を思わせるものでした。

この講座は限られた回数の中でいざ駆け足で進んだ基礎の手始めでしたが、受講した皆さんにとってただ情緒的にはなく正しく理解して音楽に接する端緒となったとすれば幸いです。今後少し時間をおいて続く段階の講座を開くことを考えています。

### 基礎音楽入門講座を受講しての感想

田中秀幸

「第一回大人のための基礎音楽入門」は自分の子供が通う貴校の講座ということもあり、親の立場からすると大変入会しやすいものでした。

先生がたの講義も大変わかりやすく、身体の動きや、言葉の韻を用いて、譜面や拍といった音楽の基礎を様々な

表現で立体的に理解することができました。先生もクラスの皆様も優しくユーモアがあり、大変豊かな学びの機会となりました。

音楽や楽器においても出会いが大切だと思います。「音楽や楽器をやってみたい」と思う人は多いと思いますが、こんな有意義な音楽講座に出会うことができれば、その多くの人たちがみんな音楽を嫌いにならずに続けていくことができると思います。

音楽は難しいですが、楽しいものです。感性や表現力、協調性や、時の大切さといった人にとってかけがえのないものも他の学問より簡単に楽しく学べます。良い機会に音楽に親しむ人が増えることは本当に素晴らしいことだと思います。

門田厚子

音楽の基礎を学びたい♪そんな一心でした。ドキドキ、ワクワクの第一回目、先生が五人も!今日は特別かな?と思っていたら、ナントナント毎回、五人の先生が全力で教えて下さって、それもすごい先生ばかり!ビックリです。

体でリズムを感じたり、目で音符の長さを確かめたり:リトミック楽しか

った♪

書き取りの時間はちよつと緊張・  
だつて、難しいんだもの。

なんてつたつて、ソルフエージスク  
ール読みつて、凄いい！井やトがいくつ  
付いていても、これをマスター出来れ  
ば、音とりが怖くないかも♪♪

大好きな歌をもつと楽しく、もつと豊  
かに歌えるかもしれない。そんな胸が  
ふくらむ思いで一杯です。

すてきな仲間も出来ました。もつと  
早くこんな機会に出会いたかつた。で  
も、私にとつては六十七才の今がきつ  
とその時なんです。

ありがとうございます！

内田由美

生まれて初めてのソルフエージ、「楽  
しかつた！」の一言です。

教材もリトミックも新鮮でした。例  
えば「音符の長さ」の教材。長さを大  
きさで実感できるように作られていま  
した。分かりやすく納得。

「音の長さを歩く」はピアノを聴い  
て歩くのですが、これが案外難しい。  
思うように足が出てくれません。これ  
は音を伸ばすときの息の出し方、リズム  
の取り方に応用できることが分かり  
ました。

「聴音」は難しい。階名が違つてい

ても歌えるのは素人の強みかなと思  
いました(笑)。「音符を書く」のにも見  
やすく分かりやすく書く決まりがあるな  
ど、どれも「なるほど」という事ばか  
りでした。知らなかつたことを知るの  
がこんなに楽しいとは、と思える十回  
の講座でした。

毎回五人の先生方が参加してくださ  
り、マンツーマンの講義、素晴らしか  
つたです。短い時間にたくさんのこと  
を一生懸命教えて下さろうとした先生  
方に感謝です。

年を取ると忘れるのが早いですが、  
今回学んだことを少しでも残して音楽  
を楽しんでいきたいと思ひます。あり  
がとうございました。



ホールにて



教室にて

### ソルフエージスクール演奏会

梅雨明け待ち遠しい六月二十九日、  
日本橋公会堂で後援会主催によるソ  
ルフエージスクール演奏会が開かれ  
ました。

この演奏会は当スクールが重視し  
ているアンサンブルの体験を、子供か  
ら大人まで垣根なく楽しみ、発表する  
場です。

小学生の連弾は素朴な舞曲を伸び  
やかに、大人のチームは「ペールギュ  
ント組曲」より有名な二曲を、繊細か  
つロマンティックに表現していまし  
た。

室内楽では、小学生四名によるヴァ  
イオリン合奏。皆自分のパートだけに  
とどまらず、相手を意識することも感

じていた演奏でした。そして、大人の  
クアルテットは、若き日のメンデルス  
ゾーンの情熱あふれる作品を熱演して  
いました。小学生チームの将来の姿を  
重ね、続けることの大切さを感じるス  
テージでした。

前半最後のリトミック&うたでは、  
経験者が年下の子をリードする姿も見  
られ、微笑ましくも頼もしい限り。歌  
は昨年のドイツ語に続き、英語の歌に  
挑戦しました。



うた

小学3年生以上の器楽合奏では  
「ルネッサンス舞曲集」を披露。音  
楽の基本は舞曲と言われる通りその  
音楽作りには苦戦しましたが、要所  
要所を高校生や大人が務め華やかな  
演奏となりました。

日曜日の室内楽クラスによる弦楽  
合奏は、指導されている林徹也先生  
の解説付きという、聴衆にもわかり

やすく、バッハに親しみを覚えた方も多かったのではないのでしょうか。

最後は恒例の合唱。ジョン・ラターの讚美歌集から選曲しました。児童合唱を含む混声合唱で美しいメロディとハーモニーを満喫しました。

合唱の伴奏に初めて生徒を起用し、一緒に音楽を作り上げる喜びも感じました。また、今回は弦楽合奏から有志

♪ソルフェージュスクール演奏会 プログラム♪

- ピアノ連弾 A 四つのレンドラー (F. シューベルト)  
道化師 (E. ポルディーニ)  
B 「ペールギュント組曲」より (E. グリーク)
- 室内楽 A かすみかくもか (ドイツ民謡)  
メヌエット ト長調 (J.S. バッハ)  
B 弦楽四重奏曲 Op. 44-2 第一楽章 (F. メンデルスゾーン)
- リトミック A 組、B 組  
うた にじ (中川ひろたか)  
マクドナルドおじさん (アメリカ民謡)
- 器楽合奏 ルネッサンス舞曲集 (T. スサート)  
弦楽合奏 「フーガの技法」より (J.S. バッハ)  
合唱 アンセム～讚美歌集～ (J. ラター)

の方々も参加し、当スクールの目的の一つでもある「楽譜を読み歌う」ことを皆で体感しました。それにしても、子供達の英語の発音の美しさには目を見張るものがありました。耳を育てることが音楽教育に大切なことだと痛感しました。

最後に、保護者の皆様には六月のりハーサルから当日までご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。



合唱



四重奏

夏季合宿

八月七日(木)～十一日(月)に亘り、軽井沢ハーモニーハウスに於いて恒例の夏季キャンプが行われました。

参加者は十八名の受講生(楽器別フルート5、ヴァイオリン6、ヴィオラ1、チェロ1、ヴァイオリン&ピアノ2、ピアノ3)と講師その他九名。そして昨年に引き続き、今年も弦楽の講師にサン・フランシスコ在住のヴァイオリニスト、亀井由紀子氏を迎えて総勢二十八名の盛大なキャンプとなりました。

亀井先生にはヴィヴァルディ四季「秋」、ドヴォルザーク「アメリカ」、ブラームス弦楽五重奏曲一番などをご指導いただき、指導のみならず先生と一緒に弾いていただいていたことで、生徒たちは頭での理解だけでなく、体中で音楽を体験し、学んでいた様子が伝わってきました。

今年は何年より早い時期の開催だったため、事前の個人練習の準備不足が心配されましたが、合宿生活を通して学ぶ音楽は普段とは全く違って、音楽だけに集中できること、一緒に生活することで互いの和ができること、などが助けとなって発表会ではそれぞれに表現力のある、素敵な音楽を披露することが出来ました。

夏季ミュージックキャンプは、アンサンブルを重要視する当スクールの柱となる行事の一つです。場所や規模は異なるものの、創立当初からずっと存続され、参加者は自然の中で音楽三昧の数日を過ごし、音楽の楽しさ、素晴らしさを体験してきました。

一九八〇年代からは軽井沢ハーモニーハウスで合宿を行ってきましたが、残念ながらこちらでの合宿は今回が最後となってしまいました。二〇一五年夏からは新たな環境の中でのスタートとなります。今年も多くの皆様の参加をお待ちしております。

講師 林さち子

サマーミュージックキャンプ感想

【深まった音楽への認識】

宮武彦成

カーペットの模様が音符に見える！合宿の最後に皆でそう言って笑いましたが、とても不思議な感覚でした。

音楽は毎日の日常の中にあるもので、朝起きて夜寝るまでの私たちの生活の一つの部分なのだと思えて気が付かせていただきました。それはこの合宿が食事の準備なども自分たちで行っているからなのかもしれません。

私は亀井先生や林先生をはじめとす

る先生方や参加者の方々に接して、自分自身の技術ももちろん、音楽的な感受性というべきか、知識も含めた「表現の狭さ」に直面し、またそれに対して何もしていない自分に悔しかったです。プロの方と比べるのはおかしきという方もいると思いますが、単にそういうことではなく自分が音楽をしている中で、プロアマ関係なく持っていないければいけない気持ちがなかつたなど痛感しました。

深く広がる音楽の深みを目指して、これからも私の生活の一部として音楽と向き合っていきたい、そう思わせて頂いたとても充実した合宿でした。ぜひまた参加したいです。(大学生)



ラモー／組曲

### 【最高に楽しかった合宿】

熊田千春

私にとって四回目のソルフエージュスクールのミュージックキャンプでは、笑顔の絶えない充実した日々を過ごすことができました。

毎日一生懸命レッスンを受け、楽譜を見て同じグループの人と合わせられるように練習をしたからか、今回のキャンプでは私も壁や床に楽譜が見えるという経験ができました。それが見える人と見えない人がいるようで、夜に皆でかがんでホールで楽譜や音符が床に見える、見えないと言いついていた光景がとても面白くてそこにいた人皆で大笑いしたことはとてもいい思い出になりました。

私はこのミュージックキャンプの一番の魅力は本物に触れる経験が沢山できるということだと思っています。参加者の中には音楽の道を志し専門的に勉強している人もいれば、私のように趣味として室内楽を楽しみたい人もいます。プロとして活躍されている先生もいます。その参加者たちがごちゃ混ぜになってグループが組まれて、音楽を学び合います。私は今回のキャンプでモーツァルトのフルート四重奏曲を弦楽器の先生方の中で勉強し、演奏させていただきました。本物の音の中に

私の音を合わせるのは緊張しましたが、音楽の感じ方、表現の仕方についてご指摘をいただき、大変多くのことを学びました。また、自分と近い歳の音楽の道を志している人たちの演奏を聴いて、刺激を受けました。

朝食作り、配膳、掃除を当番制で皆が行い、共に生活しながら勉強し合うというプログラムは、私が暮らしている寮の生活に近いこともあってとても過ごしやすし、何よりも日々本物の音楽に触れていられるこのキャンプは私にとって最高のキャンプだと四回目にして強く思いました。(大学生)

### 【大好きな合宿】

小倉晴子

一日中音楽がきこえてくる。ソルフエージュスクールの合宿はそんな五日間です。自分のレッスンの時間ももちろんですが、それ以外の時間も誰かがレッスンをしていたり練習したりしています。こんなに音楽漬けの毎日是他になんかと思いません。またそのことが自分にとって良い刺激になっています。

普段はあまり会えない人とも仲良くなれることも、合宿の魅力の一つです。学校も年齢も違う人が集まっているのに、みんなで一緒に宿題をやったりゲ

ームをしたりするうちにとっても仲良くなれます。同じ部屋の友達と朝ご飯のメニューを考えて作るのも楽しいです。

音楽が上達し、友達も増え、他にも良いことがたくさんある合宿が私は大好きです。合宿にはこれからも参加し、自分を成長させていきたいと思えます。(高校生)



弦楽合奏



自由時間

## 亀井由紀子先生公開レッスン

八月五日（火）にソルフエージスクール出身で現在アメリカのロサンゼルス交響楽団在席のヴァイオリニスト亀井由紀子さんによる公開レッスンはソルフエージスクールで開かれました。亀井さんは若くして二〇世紀の巨匠ヤツシヤ・ハイフェッツに師事し、長年師のアシスタントも務められました。

受講生のお母様にレッスンの様子をお書きいただきました。

娘が亀井先生のレッスンを受講して  
加藤久美

二〇一三年十二月に亀井先生の公開レッスンを聴講し、受講生に「あなたはどう思う？」と何度も問いかけながらともに曲に向き合い、音楽を創っていく過程を間近に見せていただいて、感銘を受けました。その亀井先生のレッスンを小学二年生の娘が受講することになり、嬉しさと不安でドキドキしながら当日を迎えました。

亀井先生は初対面の娘に「何年生？」と笑顔で話しかけてくださり、クライスラー「ブニヤニー」の様式によるプレリュードとアレグロ」のレッスンを始めました。先生が何度もおっしゃっ

ていたのは「音を聴くこと」。ひとつの音がきちんと聴こえてから次の音を弾く。重音は音の響きをよく聴き、二本の弦にバランスよく弓を載せる。テンポで曲が弾けるようになったら必ずゆっくり練習を行なって、集中しながらそれぞれの音をよく聴く。そして弾いている時の自分の身体の動きを把握する。

一時間半のレッスンを終えて最後にもう一度演奏した時には、音がクリアになり、ぐっと色彩感が出て、伸びやかな演奏になりました。

亀井先生は的確な言葉で子どもにもわかりやすく指導してくださり、側で弾いてくださる音も本当に美しく、娘には素晴らしい経験になりました。今後継続してみたいだけのこと願って、日々練習に励んでいます。

## 春のコンサート

四月二十九日（祭）に春のコンサートが催されました。

今回は海外で研鑽を積み帰国、新国立劇場、日生劇場等各地の劇場でオペラ歌手として、またN響定期、第九公演等でも大活躍のテノール歌手大槻孝志さんをお迎えしました。

第一部は室内合奏団によるパッヘ

### ♪春のコンサート プログラム♪

パッヘルベル	カノン
モーツァルト	アイネ・クライネ・ナハトムジーク
ベートーヴェン	二重奏曲 へ長調
岡野貞一	朧月夜
シューベルト	春の信仰
スカルラッティ	すみれ
チャイコフスキー	「エフゲニー・オネーギン」より
カルディツロ	つれない心（カタリ・カタリ）
A.L. ウェパー	ピエ イエズ
山田耕筰	あわて床屋

テノール…大槻孝志  
ソプラノ…江原陽子 ピアノ…込山今日子 ヴィオラ…林徹也  
クラリネット…古沢裕治 ソルフエージスクール室内合奏団

ルベルのカノンで始まり、次いでモーツァルト。これまで聴いていた感じと違う合奏の喜びと息遣いが伝わり、聴く側の心も満たされました。続いてベートーヴェンのクラリネットとヴィオラ（原曲はファゴット）の二重奏曲第二番へ長調。

休憩を挟んでの第二部は楽しい企画で歌の世界へ誘われていきました。日本の歌「朧月夜」から始まり最後に「あわて床屋」のプティ芝居で終わり

ましたが、その間にリート（ドイツ歌曲）、オペラ、カンツォーネありで盛り沢山のステージでした。

ソプラノの美しい響きとテノールの雄大な対比は進行につれホールいっぱいになりオペラの醍醐味を味わわせてくれました。「あわて床屋」は手作りの蟹から兎の被り物、大きな鉢まで用意されていて、大槻さんと江原さんの楽しいお芝居は小さい子供たちにも好評でした。来場の皆様も元気に帰途に着かれたことでしょう。

講師 大村明子



## 青木十良先生のご逝去

ソルフエージスクールの創設時から永年に亘りチェロと室内楽の指導を担当された青木十良先生が二〇一四年九月八日にお亡くなりになりました。享年九十九歳。

桐朋学園その他でも指導に当たられ多くのチェリストを育てられた先生はソルフエージスクールを二〇〇七年に退かれましたが、その後も演奏会やパッハの無伴奏チェロ組曲の録音で活動を続けられ最後まで演奏家として生涯を送られました。



自分が何を求めているんだらうと、ずっと考えてきているわけです。それが「エレガンス」なんだと、最近になってやっと発見しました。そう、「エレガンス」に向かって、自分はやってきたんだと思います。フランス語の「エレガンス」という言葉の根底にあるのは「自尊」です。そう、日本語の「気品」「品格」にも通じるものだと思います。

自分を信じ、他の人を尊ぶ。それが全身にみなぎって表現できたときには、一〇〇パーセントよい音楽をやったと思いますね。

飛鳥新社出版「チェリスト、青木十良」本文より



## 追悼

・青木十良先生の思い出・

講師 林徹也

小学入学前から大村多喜子先生にヴァイオリンの手ほどきを受けていた私は、中学に入ると先生の勧めで開校間もなかったソルフェージュ教室に入室した。

ここではソルフェージュの授業の他に青木先生のご指導のもとに合奏の

授業が行われていた。これが青木先生にお会いするきっかけとなったが、クラスには亀井由紀子さん、早水和田子さん、林さち子さん等が居られ、我々と一緒に先生がチェロを弾いて下さり、そこで合奏の基礎と楽しさを存分に叩き込んで下さった。

先生と一緒に弾いて下さった思い出の曲は数々あるが、中でもフォーレのピアノ四重奏曲、ドヴォルザークの「アメリカ」やロッシニの弦楽合奏のためのソナタ等での美しいチェロの音色や歌い回し等は未だ昨日の事のように浮かんでくる。

シューベルトの弦楽四重奏曲イ短調やベートーヴェンの弦楽四重奏曲ラズモフスキー第一番での十六分音符の後の入りやシンコペーションの掛け合い等のリズムの基礎や *cresc.*、*din.*、*sfz.*、*subito*、ピアノ等の強弱法、ドビュッシー及びラヴェルの弦楽四重奏曲での溢れるようなファンタジーや音色の変化の作り方、レスピーギの「古代舞曲とアリア」での迫力ある音楽の進行等、私の中学、高校の六年間に合奏の基礎、豊かな音色の世界、フレージング、時代様式の常識等、音楽の演奏のための多くの事を体で直に体験させて頂いた。

私の前でこちらを覗きこむようにしてチェロを演奏なさる青木先生のお顔が、そして先生の音が今も彷彿として

浮かんでくる。今日の私の音楽の多くを先生から頂いた。

その青木先生が実について先日までの永い間ご指導なさっていた当校の弦楽合奏のクラスを、図らずも私が継ぐような形で現在受け持っていることの責任の重さを実感する現在であるが、先生への感謝の気持ちは日々増すばかりである。

・青木先生に感謝をこめて・

臼井正枝

青木先生の室内楽クラスには大学入学と同時に参加させて頂きました。皆さんと一緒に弾けるレベルになく、ただただ緊張の連続でしたが、青木先生は合奏とはいえ各個人の課題をそれぞれに具体的に教えて下さるので、どんどん自分の音が変わっていくことが実感できました。

先生のレッスンはお話の方が長いのでは？と思うほどに多方面にわたるお話を切り口にして、わかりやすく面白かったです。それもそのはず、先生の人生経験が経済・物理・化学・電機工学・生物・脳科学など多岐にわたります、そのゆるぎない真実に裏打ちされた比喻で音楽を説明して下さいますので、面白くないはずがありません。

お話はいつも万物を作り上げる原

子、電子から宇宙全体にまで及びました。その中に私達は存在して、その前提のもとに音楽がある、本物の音楽とは人の心の中に入り込んで作用するもの、ということ学びました。コンクール入賞やネームバリューに感わされない目や耳を私達に育てて下さり、本物の音を目指す妥協のないレッスンが続きました。細かい演奏技術もたくさん教わりましたが、人生観、価値観、哲学など大きな影響を受け、私にとっては音楽の師というより人生の師でした。

私が最後にレッスンに伺ったのは、先生が九十七歳のときだったでしょう。曲のクライマックスで、「ここは全部ダウンボウにしてみよう」とおっしゃられたところは考えもしなかったボウイングで、驚いたと同時に先生のご年齢に関係ないエネルギーに先生のご年輪に圧倒されました。また帰り道にふりかえってみると、生徒の状態が手に取るようにわかってしまう先生が、少し縮みこんでいた私の殻を破ろうとして下さったのではないかと思えてきて、涙が出そうでした。最後に「音がよくなりましたね」とおっしゃって下さったお言葉を励みに、これからも続けていきます。

先生のところまで届くようなピアノが出来ることを目指して。どうか高いところから見守っていて下さい。ありがとうございました。



## クリスマスコンサート

十二月二十一日(日)ソルフェージュスクールホールにて、クリスマスコンサートが行われました。

ソルフェージュスクール室内合奏団に始まり、クラリネットとピアノ、チェロとピアノ、そしてソプラノが加わり、最後はレ・グルヌイユ(ソルフェージュスクールコーラスクラス)がクリスマスを祝う三曲で締めくくりました。

当日は満席のお客様となり、初めて来られた方も多くいらつしやいました。そして、「響の良い会場でこんな

### ♪クリスマスコンサート プログラム♪

シューベルト	5つのメヌエットと6つのトリオ
ラドミロー	クラリネット ソナタ ヘ短調
フォーレ	エレジー Op. 24
カザルス	鳥の歌
グノー	アヴェマリア
ウィリス	It came upon a midnight clear
ブリテン	キャロルの祭典より
バーナード	Winter Wonderland

ソプラノ…江原陽子 クラリネット…古澤裕治  
ピアノ…水野紀子、込山今日子 チェロ…吉村隆子  
ソルフェージュスクール室内合奏団 レ・グルヌイユ

に近くで聴けるのですね」「弦や管、ピアノ、声と様々な音楽を一度に聴けて幸せな時間でした！」などの感想をいただきました。

クリスマス前のひと時、皆様と共に良い時を過ごせましたことを感謝いたします。ありがとうございました。

講師 込山今日子

## 春のミュージックキャンプ

四月五日、六日に行われました。

参加者十一人Ⅱリコーダー1、フルート1、ヴァイオリン3、チェロ1、ピアノ5。

小学三年生の初参加者三人も加わり大人と子供が一緒になって連弾、弦のアンサンブル、全員での合奏などを楽しみました。最後に二日間の勉強の成果を来聴の父母などの前で発表しました。

## 初見大会

夏、冬の年二回、三年生以上の希望者のための一日の講座です。初見で二人以上のアンサンブルを経験するものです。

・七月二十日(祭)

参加者十人Ⅱクラリネット1、ヴァイオリン5、チェロ1、ピアノ3。

・十二月二十三日(祭)

参加者六人Ⅱヴァイオリン4、チェロ2。

初見大会に参加して

鈴木若菜

二回目の参加だったので、以前よりはほんの少しだけ、落ち着いて参加できたような気がします。拍子を上手にとれる方とも一緒に来て、とても勉強になりました。私はピアノの経験だけで、楽器のアンサンブルというと小学校の縦笛以来！全然気にして来なかったことがたくさんあることに気付かされました(前回より進歩した証?)。それでも、下手は下手なりに先生方が考えて下さるので、緊張しつつも私も安心してその場にいられました。

あくまで私なりの話ではありますが、参加した数時間の内に、また脳細胞が一気に広がった?のような気がします。後はそれが縮まないように努力したい・・・のですが!

先生方、ご関係の皆様、ありがとうございました。



二〇一三年度 皆勤賞・精勤賞

中学生までを対象に、一年間を通してソルフェージュ科のレッスンを休まず出席した生徒に皆勤賞、一日だけ休

んだ生徒に精勤賞が贈られます。該当者は次の八名の皆さんです。良く頑張りましたね。おめでとうござい

### 《皆勤賞》

岩岡薫  
佐藤巴南  
鈴木那雲  
田中光世  
山根果也  
吉永衣織  
和栗太佑



### 《精勤賞》

吉永衣里

受賞者には可愛いTシャツが贈られました。なかなか難しいかもしれませんが、お休みしないことは大切なことです。今回達成出来なかった皆さん、次回は頑張りましたね。



### 「四月入室キャンペーン」お知らせ

二〇一五年四月から新規にソルフェージュスクールにご入室される方に限り、入室金を半額とさせていただきます。このチャンスに是非ご入室ください。お問い合わせ、お申し込みは、三月中にお願いいたします。